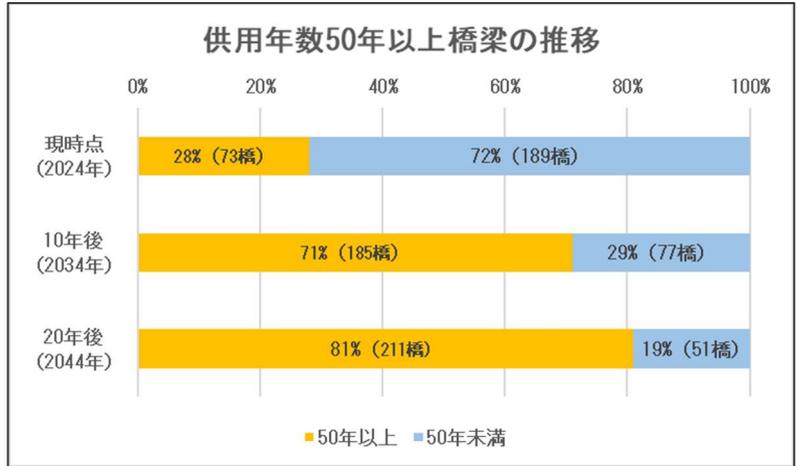


志賀町の橋梁長寿命化修繕計画

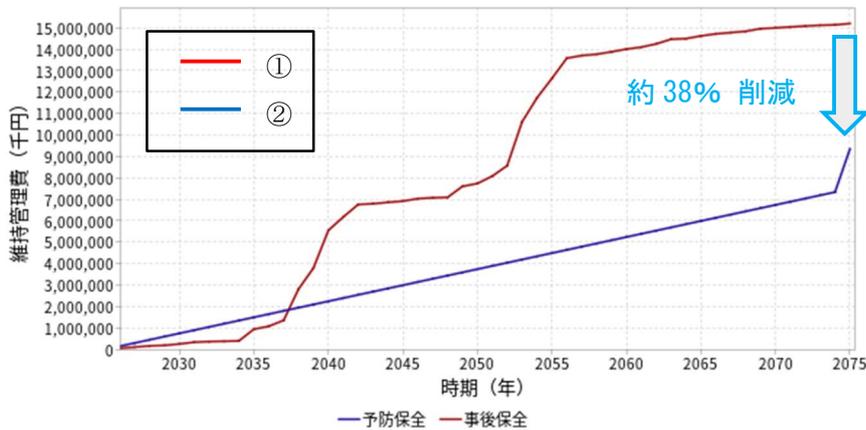
背景と目的

志賀町が管理する道路橋は、令和6年度現在 262 橋あります。このうち建設後 50 年を経過する橋梁は 73 橋存在し、全体の 28% を占めます。20 年後には建設後 50 年を経過する高齢化橋梁は 211 橋、割合としては 81% となり、急速に高齢化橋梁が増大し、橋の補修・架替に莫大な費用が必要となる事が予測されます。そこで、志賀町では将来的な財政負担の低減、道路交通の安全性確保及び志賀原発の緊急輸送道路を確保することを目的に、橋梁長寿命化修繕計画を策定します。

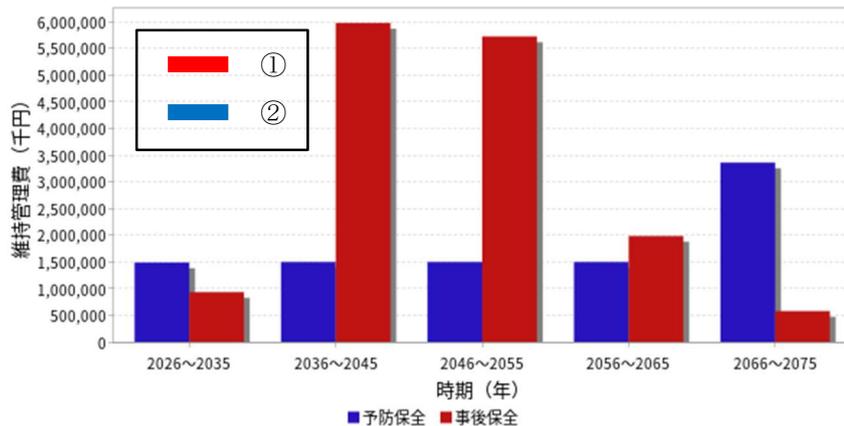


橋梁長寿命化修繕計画の効果

令和元年～6 年度において点検を行った 262 橋について、今後 50 年間に必要とされる修繕及び架替え費用を算定しました。その結果、従来行われてきた「①：損傷が大きくなってから対策を行う管理方法」と「②：損傷が大きくなる前に予防的な対策を行う管理方法」とを比較すると、後者の実施により修繕費用を約 38% 縮減することが出来ます。



補修・更新費用の累計



将来維持管理費予測

長寿命化修繕計画の概要

- ・ 橋梁の計画的な維持管理を行う事より、道路交通の安全性を確保します。
- ・ 今後老朽化する道路橋の増大に対応するために、従来の「損傷が大きくなってから対策を行う管理方法」から、「損傷が大きくなる前に予防的な対策を行う管理方法」へと転換し、将来的な維持管理費の縮減と維持更新費の平準化を図ります。
- ・ 路線の重要度、立地条件、橋の長さなどに応じた分類を行い、橋梁の健全度が下がらないように計画的に修繕を行います。

長寿命化修繕計画対象橋梁の例



神代橋
橋長 61.0m
1979年架設



小倉高橋
橋長 51.0m
1979年架設

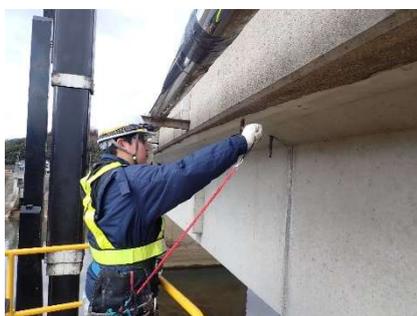


大橋詰橋
橋長 30.5m
1948年架設

橋梁の維持管理方針

- ・ 概ね5年に1回程度の定期点検を実施し、橋の損傷状況を早期に把握し、適切な修繕を行っていきます。
- ・ 日常の道路パトロールを中心とした維持管理により、橋を良好な状態に保つために日常点検を実施します。

定期点検の実施状況



橋梁点検の実施状況

平成 19 年度より「道路橋に関する基礎データ収集要領（案）」（国土技術政策研究所）により橋梁点検を実施しております。令和 6 年度現在、長寿命化修繕計画策定対象橋梁全てについて、点検・修繕計画の策定を実施済みです。

点検橋梁数

橋長	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	合計
L \geq 15m	16	23	18	6	2	65
L<15m	4	4	26	88	74	196
計	20	27	44	94	76	261

※これまで行った点検結果では緊急に道路交通に支障となる損傷は確認されませんでした。
※262 橋の内 1 橋は、圃場整備事業の関係で R6 に点検実施。

修繕工事が必要な橋梁の事例



鋼橋の主桁の腐食



コンクリート橋の床版

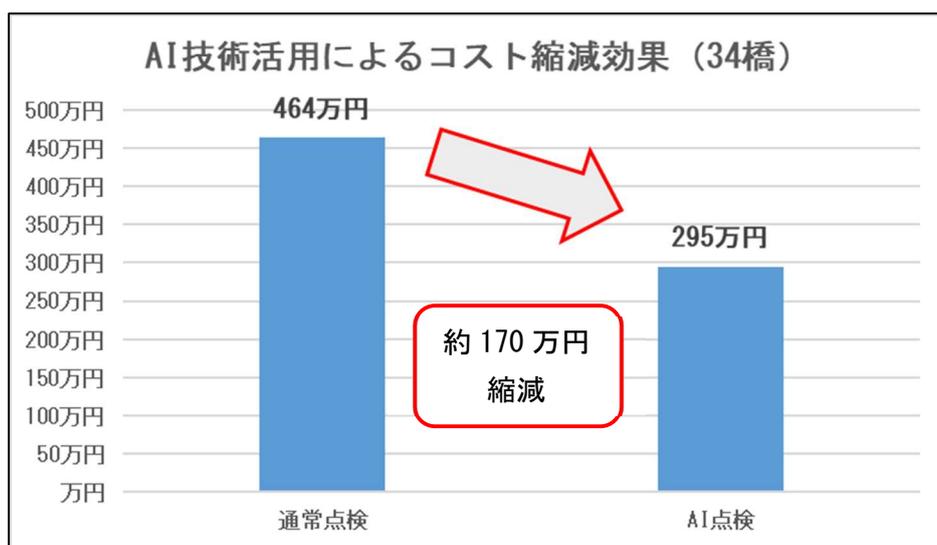
新技術活用、集約・撤去によるコスト削減効果

・集約化、撤去

迂回路があり、利用頻度が少ない橋梁において、令和16年度までに1橋程度集約撤去を行うことで、約100万円程度のコスト削減が期待できます。

・AI診断技術の活用（点検、診断時）

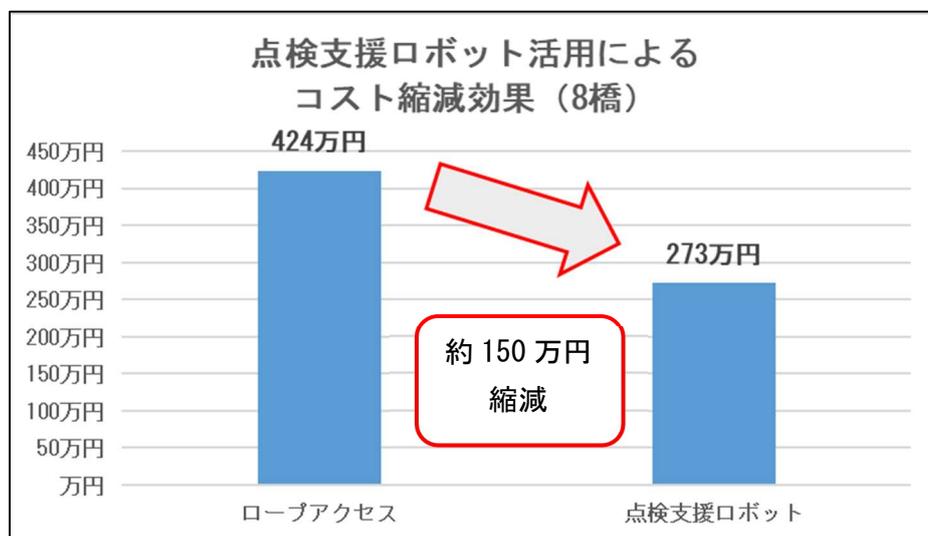
令和7年度～11年度に新技術であるAI橋梁診断支援システムを34橋に活用することで、約170万円のコスト削減が期待できます。



※点検対象橋梁262橋の内、AI技術活用可能橋梁数34橋。

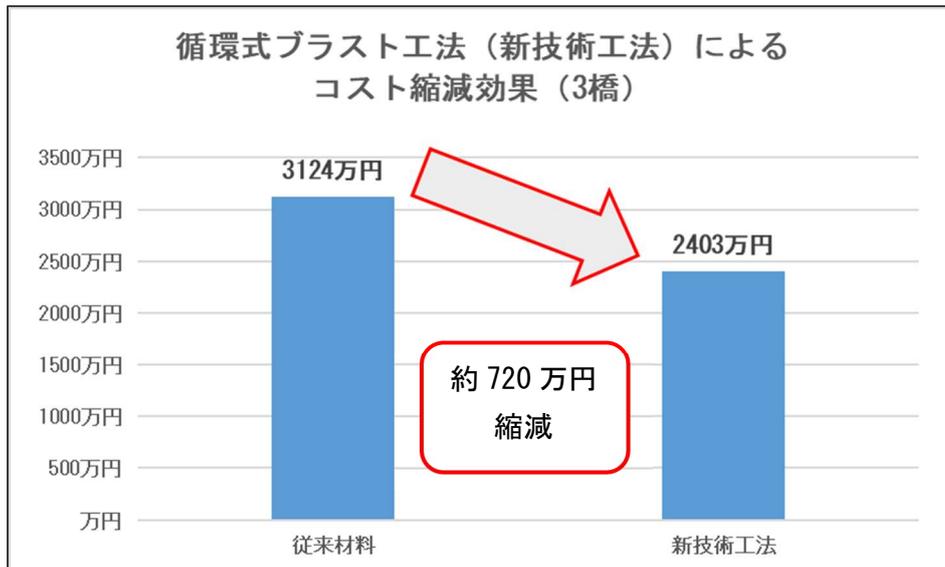
・点検支援ロボットの活用（点検時）

令和7年度～11年度において、従来ロープアクセスによる点検を行っていた橋梁（8橋）について、点検支援ロボットを活用することで、従来の点検方法より約150万円のコスト削減効果が期待できます。



・補修工事における新技術活用

令和7年度～11年度に橋梁補修としてブラスト工法を行う橋梁（3橋）において、新技術工法を採用することで、従来工法より約720万円のコスト縮減が期待できます。



今後の予定

策定した修繕計画に基づいて順次補修を行っていく予定です。全橋梁の点検は終わりましたが、定期点検をこれからも実施していきます。

意見を頂いた学識経験者

本計画の策定にあたり、石川工業高等専門学校津田誠教授に助言を頂いております。



〒925-0198 石川県羽咋郡志賀町末吉千古1番地1

担当 まち整備課

電話 (0767) 32-9212